

採用企画「模擬裁判」(代表者 服部 理恵子)

企画内容

難しく思われている法律・法制度を身近に感じ、様々な問題に目を向けて考える機会を持ってもらい、裁判というのが身近な存在であると理解してもらおうのが目的である。

活動結果

予想していたよりも来客人数が少なく、内容が難しかったとの声が多かった。また法的な考え方をうまく伝えることができず、裁判所で争われると代理母が勝つ可能性が強いと考えたのだが終了後のアンケートでは依頼者側勝訴という形になった。しかし、今回は諸礼金を使い、白衣などが購入できたので誰が何の役をやっているかがわかりやすく、一幕の劇はおもしろく事件の流れが分かりやすかったとの声もあった。しかし、マイクの位置などが本番ではいつもの場所よりずれてしまって声が聞き取りにくくなってしまったり、スクリーンをあげ忘れてたりなど細かいミスがいくつかでてしまった。今年は試行錯誤で進めていったが、段取りが悪く、反省する点多々あるため、この点を踏まえて来年度の模擬裁判を指導していきたいと思う。また今年使用した衣装などはこれから先も模擬裁判でどんどん使用していこうと思う。

感想

今回初めて奨励金をもらい、より良い模擬裁判を作ろうと試みたが思ったよりも思い通りには行かず、次から次へとたくさんの問題がでてきてしまいました。普段から法律を勉強しているため、専門用語を当たり前のように使ってしまったたり、代理母の法律問題の議論の段階で大きく意見が分かれてしまったりもして作業がどんどん遅れてしまうこともありました。しかし、模擬裁判を通して、ゼミの中だけではなく、ゼミ外の人たちとも交流を深めることが出来、大変良い経験になったと思います。また難しいと思われがちな法律を分かりやすく説明するために一から勉強しなおしたりもし、授業とはまた別の意味で大変勉強になりました。しかし、そういったことを観客の方にうまく伝えることができず、心残りな点もたくさんあります。このことを次の三回生にも伝えていきたいと思います。